



発行所 高知新聞社  
高知市本町3丁目2-15  
088-822-2111 780-8572  
© 高知新聞社 2018

関連記事

- 2面＝首相総裁選出見込み延期
- 4面＝企業の備えに重点
- 26面＝F1選手が復旧支援
- 28面＝防災の心構え高知市で講演
- 29面＝炎天下「少いでも力に」

# 「警報 非日常への切り替え」

## 「わがこと意識」重要

中国、四国地方を中心に大きな傷痕を残した西日本豪雨。高知県内でも3人が犠牲になり、県内初の大雨特別警報も発表された。激しい雨が局地的に続く「線状降水帯」など大雨に関するメカニズムの解析が進む中、私たちは口頃からこんな心構えでいるべきなのか。高知市主催の「防災人づくり塾」で13日、兵庫県立大学の木村准教授(防災心理学)が災害への備えを講演した。その要旨を紹介する。(大山泰志)

警報や避難勧告など災害時はさまざまな情報が出される。各情報ごどんな意味を持つかをしっかりと理解し、行動することが大切だ。岡山県倉敷市真備町では、多くの人が犠牲になったが、ちゃんと対応して助かった人もいる。

「わがこと意識」という言葉がある。他の場所の災害を自分のこととして意識してほしい。発生頻度が低い災害は直接的経験が少なく、リスクをイメージしにくい。ことあるごとに自分の意識を喚起しないといけない。

危機管理には、①疑わしい時は行動せよ②最悪事態を想定して行動せよ③空振りには許されるが、見逃しは許されないという原則がある。実際に対応したが、災害は起きなかったというのが、危機管

### 高知市 木村准教授(兵立大)が防災講演



「弱い所を知り、対応力を上げていく。やったらやった分の力が付く」と話す木村准教授(13日夜、高知市丸ノ内1丁目の総合あんしんセンター)

理ではパーフェクトな災害の可能性が普段とは桁違いに高まっているので、心のスイッチ

水害には土砂災害、浸水害、洪水害があり、子を日常から非日常に全て当てはまる所も一つも当てはまらない所もある。

ハザードマップをしっかりと見て自宅、よく行く店、病院、勤め先、よく通る道、どこが危険かをチェックしてほ

避難勧告が出て、ハザードマップで自宅が2階まで漬からず河川近傍でもないなら、必ずしも避難所に行

警報が出れば懐中電灯を取り出す、非常持ち出し袋を玄関に出して、自分で作っておくこと

今回の雨で特別警報が話題になった。特別警報ができ、警報が格下げになった。特別警報が出たら気を付けよう」という人が増えて

警報は、人が死んだら、物が壊れたりする情報ではない。そうし

「弱い所を知り、対応力を上げていく。やったらやった分の力が付く」と話す木村准教授(13日夜、高知市丸ノ内1丁目の総合あんしんセンター)

「弱い所を知り、対応力を上げていく。やったらやった分の力が付く」と話す木村准教授(13日夜、高知市丸ノ内1丁目の総合あんしんセンター)